

到達目標に対応した授業科目(科目群)と履修の流れ<カリキュラムマップ>

教育の目的

・医学と他の関連分野の知識を統合することにより、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命をさらに高いレベルで達成することができる多様な人材を育成する。

プログラム名：医科学専攻修士課程
学 位：修士(医科学)

到達目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
	必修科目	選択必修科目	選択必修実習科目	自由科目 選択科目
A知識・理解				
・素養としての基礎的医学知識を身につける。	医学概論(1) 生命倫理学(1) 人体構造と機能 I-IV各(1) 微生物・薬物と生体反応 I-IV各(1) 病因と病態 I-IV各(1)	医科学実習 I ①(2) 医科学実習 II (1)	医科学実習 I ②(2) 病態制御学 I-IV各(2)	医科学実習 I ③(2)
・医学と他の分野の知識を融合することによって、より深く生命科学研究の進歩を理解する。	人体構造と機能 I-IV各(1) 微生物・薬物と生体反応 I-IV各(1) 病因と病態 I-IV各(1) 医科学ゼミナール①(4)	医科学実習 I ①(2) 医科学ゼミナール②(4) 医科学実習 II (1)	医科学実習 I ②(2) 医科学ゼミナール③(4) 病態制御学 I-IV各(2)	医科学実習 I ③(2) 医科学ゼミナール④(4)
B技能(B-1 専門的能力)				
・ヒトの生命現象を定量するための様々な手法を理解・実践できる。	人体構造と機能 I-IV各(1) 微生物・薬剤と生体反応 I-IV各(1) 病因と病態 I-IV各(1) 医科学ゼミナール①(4)	医科学実習 I ①(2) 医科学ゼミナール②(4) 医科学実習 II (1)	医科学実習 I ②(2) 医科学ゼミナール③(4) 病態制御学 I-IV各(2)	医科学実習 I ③(2) 医科学ゼミナール④(4)
・生物統計学を理解し、解析に活かすことができる。	疫学・医学統計学 I-IV各(1)			
B技能(B-2 汎用的能力)				
・論理的に問題を解決する思考力を持つ。	疫学・医学統計学 I-IV各(1)	医科学ゼミナール②(4)	医科学ゼミナール③(4)	修士論文作成演習(4) 医科学ゼミナール④(4)
・得られた研究成果を適切にまとめ、明解に発表できる。		医科学ゼミナール②(4)	医科学ゼミナール③(4)	修士論文作成演習(4) 医科学ゼミナール④(4)
C態度・志向性				
・国際的英文雑誌に研究成果を発表することの重要性を知る。	疫学・医療統計学 II (1) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医学研究特論 I (1)、II (1)	医科学ゼミナール③(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)	修士論文作成演習(4) 医科学ゼミナール④(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)
・世界的見地から人類の健康と福祉に貢献することの大切さを知る。	医学概論(1) 生命倫理学(1) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医学研究特論 I (1)、II (1)	病態制御学 I-IV各(2) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医学研究特論 I (1)、II (1)
・出身学部で取得した知識を活用し、医学者として新しい分野を切り開く気概を持つ。	医学概論(1) 生命倫理学(1) 医科学ゼミナール①(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医科学ゼミナール②(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医科学ゼミナール③(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)	医科学ゼミナール④(4) 医学研究特論 I (1)、II (1)

学位プログラム(大学院)ごとのカリキュラムマップ(医学系学府 保健学専攻修士課程 看護学分野)

教育の目的 (Educational aims)

1. 保健学における創造性豊かな優れた研究・開発能力を有する教育者・研究者を養成する。
2. 保健学分野における研究マインドをもった実践的指導者や組織リーダーを養成する。

到達目標	1年～2年			
到達目標 (Learning Outcomes)				
知識・理解				
1. 保健・医療・福祉の多様な課題を包括的に理解できる。	医療安全管理学	看護組織・マネジメント論	保健医療とソーシャルサポート	看護研究方法論 I・II
2. 専門領域の研究に必要な科学的知識や方法論を学び、科学的・論理的に思考できる。	保健学研究論	保健・医療とIT	看護研究方法論 I・II	
3. 専門領域の基盤的なかつ包括的専門知識や技術を説明できる。	がん医療支援論	がん看護演習 I・II・III がん看護実習 I・II	看護研究方法論 I・II	
4. 高度な先進技術に関する知識を理解し応用できる。	先端医療論	がん看護演習 I・II・III がん看護実習 I・II	看護研究方法論 I・II	
5. 英語での学術的情報を理解し、研究に活用できる。	国際社会とチーム医療		看護研究方法論 I・II	
専門的能力				
1. 専門領域で自立して研究できるための基礎的能力を身につける。	保健学研究論 保健・医療とIT	看護研究方法論 I・II 看護学特別研究 基礎看護学特論 I・II 臨床看護学特論 I・II	がん看護特論 がん看護援助論 発 達看護学特論 I・II 地域看護学特論 I・II	看護教育論 課題研究
2. 専門領域で自立して教育・指導できるための基礎的能力を身につける。	保健学研究論	看護研究方法論 I・II 看護学特別研究 基礎看護学特論 I・II 臨床看護学特論 I・II	がん看護特論 がん看護援助論 発 達看護学特論 I・II 地域看護学特論 I・II	看護教育論 課題研究
汎用的能力				
1. 高度化する医療に対応できる能力を身につける。	先端医療論	コンサルテーション論	医療安全管理学	
2. 高齢化・情報化などの社会の変化に対し、自らの専門領域における対応のあり方について考察できる。	保健・医療とIT	コンサルテーション論	がん医療支援論	
3. 国際化に活躍できるための基礎的能力を身につける。	国際社会とチーム医療			
態度・志向性				
1. 豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を身につける。	医療安全管理学 医療と生命倫理	がん医療支援論 コンサルテーション論	看護組織・マネジメント論	
2. 保健学に対する強い興味と本質への高い追及意欲、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。	国際社会とチーム医療	保健医療とソーシャルサポート		
3. 人々の健康増進に寄与する強い意志を身につける。	医療と生命倫理	看護組織・マネジメント論	保健医療とソーシャルサポート	

到達目標に対応した授業科目(科目群)と履修の流れ<カリキュラムマップ>

学位プログラム「大学院医学系学府保健学専攻 修士課程 検査技術科学」

知識・理解について	1年		2年
	前期	後期	前期～後期
・医療におけるチーム医療の意義と重要性を理解する。	国際社会とチーム医療		
・基礎的医学知識を基盤として、各臨床検査を行う上での応用的知識を身につける。	保健学研究論	病態情報解析検査学	検査技術科学特別研究
		病態情報機能検査学	
		生体情報解析検査学	
		生体情報機能検査学	
		病態情報解析検査学演習	
		病態情報機能検査学演習	
		生体情報解析検査学演習	
		生体情報機能検査学演習	
・臨床検査の医療における目的並びに立場を理解し、検査技術向上の必要性を理解する。	検査技術科学特別研究	病態情報解析検査学	検査技術科学特別研究
		病態情報機能検査学	病態情報解析検査学演習
		生体情報解析検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報解析検査学演習
		病態情報解析検査学演習	生体情報機能検査学演習
		病態情報機能検査学演習	
		生体情報解析検査学演習	
		生体情報機能検査学演習	
・臨床検査における課題を理解し、さらなる質的向上を図る知識を身につける。	検査技術科学特別研究	病態情報解析検査学	病態情報解析検査学演習
		病態情報機能検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報解析検査学	生体情報解析検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報機能検査学演習
			検査技術科学特別研究
・医療における情報通信と検査データの標準化の意義を理解する。	保健・医療とIT	病態情報解析検査学	病態情報解析検査学演習
		病態情報機能検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報解析検査学	生体情報解析検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報機能検査学演習
			検査技術科学特別研究
専門的能力について			
・基礎的な情報通信技術について理解し、臨床検査情報の重要性を身につける。	保健・医療とIT	病態情報解析検査学	病態情報解析検査学演習
		病態情報機能検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報解析検査学	生体情報解析検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報機能検査学演習
		検査技術科学特別研究	検査技術科学特別研究
・専門領域の外国語論文を読み、研究・開発に応用できる基礎知識を身につける。		病態情報解析検査学	検査技術科学特別研究
		病態情報機能検査学	病態情報解析検査学演習
		生体情報解析検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報解析検査学演習
		病態情報解析検査学演習	生体情報機能検査学演習
		病態情報機能検査学演習	検査技術科学特別研究
		生体情報解析検査学演習	
	生体情報機能検査学演習		
・研究・開発するための基礎知識を身につける。	検査技術科学特別研究	病態情報解析検査学	病態情報解析検査学演習
		病態情報機能検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報解析検査学	生体情報解析検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報機能検査学演習
		病態情報解析検査学演習	検査技術科学特別研究
		病態情報機能検査学演習	
		生体情報解析検査学演習	
		生体情報機能検査学演習	

汎用的能力について			
<p>・現在の臨床検査の状況を理解し、医療の充実に貢献する意識を身につける。</p>		病態情報解析検査学	検査技術科学特別研究
		病態情報機能検査学	病態情報解析検査学演習
		生体情報解析検査学	病態情報機能検査学演習
		生体情報機能検査学	生体情報解析検査学演習
		病態情報解析検査学演習	生体情報機能検査学演習
		病態情報機能検査学演習	
		生体情報解析検査学演習	
		生体情報機能検査学演習	
<p>・情報収集能力とそれを活用する能力を身につける。</p>	保健・医療とIT		
<p>・専門領域の知識をもとに、医療におけるチーム医療の一員としての立場を理解する。</p>	国際社会とチーム医療		
<p>・自己の専門領域の知識を説明し、発表する能力を身につける。</p>	国際社会とチーム医療	病態情報解析検査学演習	病態情報解析検査学演習
	コンサルテーション論	病態情報機能検査学演習	病態情報機能検査学演習
		生体情報解析検査学演習	生体情報解析検査学演習
		生体情報機能検査学演習	生体情報機能検査学演習
<p>・人の意見を聞いて自己の意見をもち、討論することができる。</p>	国際社会とチーム医療		
	コンサルテーション論		
態度・志向性について			
<p>・積極的に周囲の人とコミュニケーションできる能力を身につけ、議論できる能力を養う。</p>	国際社会とチーム医療		
	コンサルテーション論		
<p>・医療における他分野の役割を理解し、共通する課題について共に取り組む協調性を身につける。</p>	国際社会とチーム医療	医療と生命倫理	
	先端医療論		
	がん医療支援論		
<p>・医学・医療全般に対する興味・関心を養い、自己の考えをもつ。</p>	国際社会とチーム医療	医療安全管理学	
	保健学研究論		
	コンサルテーション論		

学位プログラムに対応するカリキュラムマップ（医学系学府 保健学専攻修士課程 医用量子線科学分野）

教育の目的 Educational aims

多方面にわたる学際的、領域横断的な教育研究を推進することにより保健学の理念を追究し、教育と研究を通じて、臨床現場における診療放射線技術等の実践的指導者、将来の大学教育者研究者、企業での新しい医療機器開発者などへ発展する人材育成を行う。

到達目標 Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles)	1～2年次		2年次
1. 医用量子線科学分野の幅広い知識と新しい物理・工学的理論に基づいて、将来大学などで放射線技術学、医学物理学などの分野の教育及び創造的な研究を行う教育者・研究者として寄与できる素養を獲得する。	先端医療論 保健学研究論 国際社会とチーム医療 保健医療とIT 医療安全管理学 医療と生命倫理 がん医療支援論 コンサルテーション論	基礎電磁波論 基礎量子力学 医学物理情報理論	医用量子線科学特別研究
2. 放射線技術学、放射線医学、医学物理学の深い知識を習得し、修了後さらに専門的な知識を蓄積することにより、将来臨床現場における実践的指導者として活躍できる素養を獲得する。		分子機能画像科学論 量子線治療科学論 医用画像情報科学論 医用画像科学論	医用量子線科学特別研究
3. 新しい物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる放射線機器メーカーの開発や放射線防護ならびに管理の専門家として、発展できる知識と技術を習得する。		分子機能画像科学演習 量子線治療科学演習 医用画像情報科学演習 医用量子線理工学演習	医用量子線科学特別研究
4. 研究成果を国内に向けて情報を発信する経験を積む。			医用量子線科学特別研究

到達目標に対応した授業科目(科目群)と履修の流れ<カリキュラムマップ>

教育の目的

- ・ 専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整組織化できる高度な専門職業人を育成することを目的とする。
- ・ 疫学・生物統計学等を基盤に、医療政策・医療経営・医療管理の分野に本専攻の特色として医療コミュニケーションの分野を加えて構成し、医療・保健に関する幅広い問題について総合的な教育研究を行う。

プログラム名： 医療経営・管理学専攻
 専門職学位課程

学 位： 医療経営管理学修士(専門職)

到達目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
	医療学基礎科目群	共通基礎科目群	必修専門科目群	選択専門科目群
A知識・理解				
・ 医療政策の目的、仕組み、関連法規、現状の問題点について説明できる。	医療政策学(2)	医療保障法(2)	医療行政学(2)	
・ 医療経営の目的、経営戦略、経営組織、事業計画、マーケティングについて説明ができる。	医療財政学(2)	医療経営学(2) 医療財務管理論(2)	医療マーケティング論(2)	
・ 医療管理の目的、組織管理、安全管理、医療の質の管理、人事管理、財務管理について説明ができる。	医療管理学(2) 医療の質概論(2)	医療安全管理論(2) 病院管理論(2) 医療財務管理論(2)	医療人事管理論(2)	
・ 医療コミュニケーションの目的、技法、阻害要因、医療紛争の予防について説明ができる。	医療コミュニケーション学 I (1)	ケアコミュニケーション論(2) 医療コミュニケーション学II(2)		
B技能(B-1 専門的能力)				
・ 基本的な統計学的、疫学的手法を用いて定量することができる。	医学統計学(2) 疫学(2)		演習 I (1)	演習 II (1)
・ 医療政策に対応した経営を実践できる。	医療政策学(2) 医療財政学(2)	医療経営学(2) 医療行政学(2) 医療財務管理論(2)	演習 I (1) 医療マーケティング論(2)	演習 II (1)
・ 医療管理を改善するための仕組みを構築できる。	医療管理学(2) 医療の質概論	病院管理論(2) 医療安全管理論(2)	演習 I (1)	演習 II (1)
・ 医療経営・管理に関する問題を調査し、対策・改善を行うことができる。			演習 I (1)	演習 II (1)
B技能(B-2 汎用的能力)				
・ 現場の問題に対し、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善することができる。		医療オーガナイズ論(2) 疾病管理学(2) 病院管理論(2) 医療情報学(1)	演習 I (1)	演習 II (1)
・ 問題解決を組織的に行っていくための技術を習得している。		医療オーガナイズ論(2) 疾病管理学(2) 病院管理論(2) 医療情報学(1)	演習 I (1)	演習 II (1)
・ 問題を論理的に現場や社会に対して伝えることができる。	医療コミュニケーション学 I (1)	ケアコミュニケーション論(2) 医療コミュニケーション学II(2)	演習 I (1)	演習 II (1)
・ 利害関係者の多様な利害を調整し、コンセンサスを得るプロセスを担うことができる。	医療政策学(2) 医療コミュニケーション学 I (1)	ケアコミュニケーション論(2) 医療行政学(2) 医療訴訟論(2) 医療コミュニケーション学II(2)	演習 I (1)	演習 II (1)
C態度・志向性				
・ 医療の問題意識を常に持ち、自ら進んでその問題を解決していこうという志向をもつ。	外科学(1) 内科学(1) 社会医学(1) 薬事情報学(1) 分子医学概論(1)		演習 I (1) インフォームド・コンセント(1)	演習 II (1)
・ 根拠をもとに、周囲のスタッフと現場の認識を共有し、改善に向けた共同作業を行いながら、自身も組織も成長することができる。	社会医学(1) 医療人間学(2)		演習 I (1) 医療人事管理論(2)	演習 II (1)
・ 患者、職員が納得した医療を届けるための仕組みを作っていくという意識をもつ。	社会医学(1) 医療人間学(2)	医療保障法(2) 医療訴訟論(2)	演習 I (1) インフォームド・コンセント(1) 医療人事管理論(2)	演習 II (1)
・ 最終的に、医療を通して社会へ貢献したいという志向性をもつ。	医学概論(1) 社会医学(1) 医療人間学(2)		演習 I (1)	演習 II (1)

学位プログラム(大学院)ごとのカリキュラムマップ(医学系学府 保健学専攻博士課程 看護学分野)

教育の目的 (Educational aims)

1. 医療人としての豊かな学識と人間性を備え、自立して研究活動を行う能力をもつ教育者・研究者を養成する。
2. 保健学(看護)領域において臨床能力と高い教育・研究能力を併せ持つ実践的指導者を養成する。

到達目標	1年～2年			1年～3年
到達目標 (Learning Outcomes)				
知識・理解				
1. 科学的知識や方法論を学び、より深く科学的、専門的、論理的に思考できる。	ヘルスサイエンス論	看護教育方法開発学 I・II	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II	保健学特別研究
2. 専門領域の包括的かつより深い専門知識や技術を説明できる。	ヘルスサイエンス論	看護教育方法開発学 I・II	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II	保健学特別研究
3. 高度先進技術に関する知識を理解し応用できる。		看護教育方法開発学 I・II	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II	保健学特別研究
4. 英語での学術的情報を理解し、かつ自身の成果を発信できる。	医療英語	国際医療システム論		
専門的能力				
1. 専門領域で自立して研究できる。	ヘルスサイエンス論	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II	国際医療システム論	保健学特別研究
2. 専門領域で自立して教育・指導できる。		看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II	国際医療システム論	保健学特別研究
汎用的能力				
1. 高度化する医療に対応できる。		看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II		保健学特別研究
2. 高齢化・情報化などの社会の変化に対し、自らの専門領域における知識・技術を活用して対応できる。	ヘルスサイエンス論	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II		保健学特別研究
3. 国際的に活躍できる。	医療英語	国際医療システム論		保健学特別研究
態度・志向性				
1. 豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を身につける。	看護教育方法開発学 I			保健学特別研究
2. 保健学における新たな知的資源および科学領域を創出する意欲と、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。	ヘルスサイエンス論	医療英語	国際医療システム論	保健学特別研究
3. 人々の健康増進に寄与する強い意志を育み自己研鑽できる。	ヘルスサイエンス論	看護教育方法開発学 I・II 健康支援ケアシステム論 I・II 地域生活ケアシステム論 I・II 母子発達ケアシステム論 I・II		保健学特別研究

到達目標に対応した授業科目(科目群)と履修の流れ<カリキュラムマップ>

学位プログラム「大学院医学系学府保健学専攻 博士課程 検査技術科学」

	1年		2年～3年	
	前期	後期	前期	後期
知識・理解について				
・ 医療並びに社会における臨床検査技師の役割と使命について理解する。	ヘルスサイエンス論	病態情報解析学Ⅱ		
	病態情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ			
・ 医療施設における医療情報システム並びに検査情報システムについて理解する。	ヘルスサイエンス論	病態情報解析学Ⅱ		
	病態情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ			
・ 臨床検査で利用する測定装置や測定試薬の原理を理解し、検査技術の改良・工夫ができる知識を身につける。	ヘルスサイエンス論	病態情報解析学Ⅱ	保健学特別研究	保健学特別研究
		生体情報解析学Ⅱ		
・ 各種臨床検査および検査結果の意味について理解し、論理的に病態を説明できる。	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ	保健学特別研究	保健学特別研究
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 臨床検査室の世界的な動向についての知識を身につける。	ヘルスサイエンス論			
専門的能力について				
・ 医療情報通信技術並びに臨床検査データ情報の標準化の知識を身につける。	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 専門領域の外国語論文を読み、研究・開発に応用できる幅広い知識を身につける。	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 研究・開発するための応用力を身につける。	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ	保健学特別研究	保健学特別研究
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
汎用的能力について				
・ 臨床検査室の現状を理解し、実践の現場の検査技術向上に必要な知識を身につける。	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ	保健学特別研究	保健学特別研究
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 研究・開発に必要な情報収集能力を身につける。	ヘルスサイエンス論		保健学特別研究	保健学特別研究
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 臨床検査データ標準化の意義を理解し、その手法について必要な知識を身につける。	ヘルスサイエンス論		保健学特別研究	保健学特別研究
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 専門領域において自分の意見を述べ、発表でき、議論する能力を身につける。	ヘルスサイエンス論			
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ	保健学特別研究	保健学特別研究
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
	保健学特別研究	保健学特別研究		
・ 外国語でコミュニケーションや発表する語学力を持ち、国際的に活躍できる能力を身につける。	ヘルスサイエンス論			
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
態度・志向性について				
・ チーム医療を推進する立場から、異なった分野の人とコミュニケーションできる能力を身につける。	ヘルスサイエンス論			
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 課題について積極的に他者と共に取り組む協調性を身につける。	ヘルスサイエンス論			
	病態情報解析学Ⅰ	病態情報解析学Ⅱ		
	生体情報解析学Ⅰ	生体情報解析学Ⅱ		
・ 専門分野のみならず、医学・医療全般に対する幅広い興味・関心を常にもつ。	ヘルスサイエンス論			

学位プログラムに対応するカリキュラムマップ（医学系学府 保健学専攻博士後期課程 医用量子線科学分野）

教育の目的 Educational aims

多方面にわたる学際的、領域横断的な教育研究を推進することにより保健学の理念を追究し、保健学領域において、創造性豊かな優れた研究・開発を独立して行いうる能力を有する教育者・研究者の養成、及び保健学分野の実務領域における高い研究能力を併せ持つ医療技術系の実践的指導者や組織リーダーを養成するとともに、国際的な視野をもつ医用量子線科学分野の教育・研究拠点で活躍できる人材を輩出することを目的とする。

到達目標 Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles)	1～2年次		1～3年次
1. 研究計画の立案、倫理問題の考察、データの収集、結果の解析およびその解釈と考察などを行うことにより深い洞察力を養い、国内外にむけて積極的に情報を発信する能力を高め、独立して研究を行いうる能力を獲得する。	ヘルスサイエンス論 医療英語		保健学特別研究
2. 医用量子線科学分野における実践活動の質的向上および新たな人材育成に貢献するために、同領域における最新の知識と科学的研究方法を修得し、自立した研究遂行能力を獲得することにより、保健学領域の大学及び大学院または医療機関において、教育及び創造的研究を行う教育者・研究者となり得る素養を獲得する。		量子線理工科学 I 臨床量子線科学 I	保健学特別研究
3. 医用量子線科学分野における高度な知識及び高度先進技術を修得し、グローバル化社会における保健医療の実践活動において自立した研究遂行能力を有し、的確な判断力・洞察力を身につけた専門分野の管理者・指導者を目指して、研究マインドを有する実践的指導者として活躍できる素養を獲得する。	ヘルスサイエンス論 医療英語	量子線理工科学 I 臨床量子線科学 I	保健学特別研究
4. 最新の医学と先端的な物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる専門的な知識をさらに高め、放射線技術学、医学物理学に基づく検査機器システム、診断支援システム等の開発に携わる企業などで開発者として発展できる素養を獲得する。		量子線理工科学 I 臨床量子線科学 I	保健学特別研究